



熱のこもった指導風景



定期演奏会のオペレッタの練習



衣装を身に付け本番ながら

今年で創立34周年を迎える今市少年少女合唱団は、小学生、中学生の団員18名で構成されています。

取材の日は、小林芳枝さんと根本有貴さんの指導の下、2月24日(日)に開催された定期演奏会の練習の真つ最中でした。

団員の小林未奈さん(中学3年生)と、山形歩実さん(小学6年生)に聞きました。

Q 入団してからどれくらいになりますか？

A 小学6年生から始めたので、4年目になります。今年はややキャブテンを務めています。もうすぐ卒団なので、寂しいです(小林さん)。小学2年生から入団しました。今年で5年目になります。合唱団はと

ても楽しいです(山形さん)。

Q 合唱団の魅力は何ですか？

A 学校や年齢の差を気にすることなく、みんな楽しく活動できることです(小林さん)。

Q 合唱団をやっている良かったと思うことはありますか？

A 学校で、先生やみんなから「歌がうまいね」と言われたときです(山形さん)。

今市少年少女合唱団は、姉妹都市ラピッド市の訪問団の歓迎セレモニーや、福祉施設への慰問演奏会などでも活躍しています。また、定期演奏会の会場などでチャリティー活動を行っており、売り上げを東日本大震災の被災地などへ寄付しています。歌の好きなお子さん、ぜひ、合唱団に入りませんか？

② 今市少年少女合唱団(中央公民館)

参加者の声でつなぐ 公民館の教室・講座紹介

〒321-1431 日光市山内 2388-3 TEL: 50-1200 ホームページ http://www.khmoan.jp/

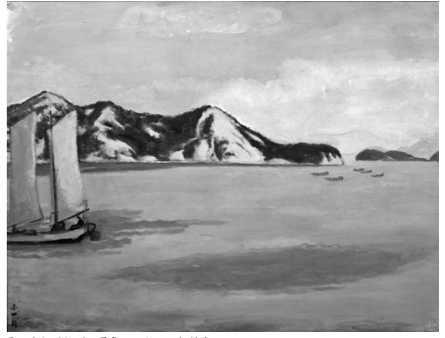
(1枚につき、5名様まで有効) 小杉放菴記念日光美術館

切り取ってご利用ください

特別企画 「子どもと楽しむ絵と音楽～国立公園の絵画展」

美術館は、子どもたちと一緒に、絵と音楽の世界に親しむことのできる講座を開催しています。

今回のテーマは「色と音で水を感じる」です。水辺の風景を描いた国立公園の絵画と、水をイメージした音楽を楽しみながら、国立公園にまつわる話も聞くことができる盛りだくさんの内容です。家族でぜひ、参加してください。



満谷国四郎「櫃石島の帰帆」(1932年頃) 小杉放菴記念日光美術館蔵

と き: 3月17日(日)午前10時～正午
講 師: 宮地ゆみ氏(ピアニスト)、宮地信良氏(元環境庁レンジャー)、当館学芸員
参 加 料: 300円(飲み物付き)
参加方法: 美術館へ電話で申し込む

◆ 展覧会「日光市新収蔵記念 美しき日本の風景 国立公園の絵画展」(後期)
会 期: 2月23日(土)～4月7日(日)
休 館 日: 毎週月曜日(祝日・振替休日の場合は開館し、翌日を休館)
開館時間: 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
入 館 料: 一般…700(300)円、大学生…500(200)円、高校生以下…無料
※()内は市民割引券を利用した際の料金です。

KOSUGI HOAN MUSEUM OF ART, NIKKO 小杉放菴記念日光美術館

市民文芸

川 柳 選者 山本都留米
今日のこと一日経てば過去のこと 青木照雄
胸の内見抜かれそうな雛の顔 石川みかん
厚化粧顔だけ見れば若く見え 植田義雄
脱ぐ時の苦労忘れた厚着ぶり 白土武夫
雛壇に春の香りの夫婦雛 手塚俊美
増えてきた白髪の量と年の数 沼尾善子
夢描く色を探して今日も暮れ 芳野起代子
俳 句 選者 伊藤清
天空へ凧と手翳す冬木立 渡辺ミチ子
大寒の朝蒸したオルを顔いっぱい 荒井境子
川一つ隔てて競ふどんと焼き 湯沢くに
大寒や隣も雨戸まだ開かず 星陽子
七種や揃わぬまゝに粥を炊く 星野シズ
冬晴や松百年の枝の反り 星野恒志
寒の入り修行に歩く僧の列 植田義雄

作品を募集しています!
川柳・俳句・短歌を募集しています。氏名(ふりがな)、住所、電話番号を明記して、郵送またはFAX、メールでご応募ください(二重投稿は不可)。
なお、作品中の漢字には、ふりがなを明記してください。
応募先及びくわしくは
秘書広報課 広報広聴係
☎(21)5135 FAX(21)5109

短 歌 選者 阿久津伸一
あらたまの年の始めを寿ぎて集いし 歌友の幸を祈らん 名古屋佳子
初日さす茶の間に集う子等と孫稚煮の湯気も賑わい揺れる 福田きくい
終りなく生れる白波共に見た亡母は 帰りぬ龍宮城へ 関根眞佐子
七草を刻む香りの懐かしも母なる里の土の息吹よ 北崎君
伝来の美田もありしが影もなし篠藪みだれ雉子が住みをり 池田三夫
登校の霜柱踏む学童は笑顔に満ちて元氣をもらう 青木照雄
何回も明り点してゐたりけり深夜歌湧くこのお正月 白土武夫

歴史民俗資料館通信

日光市中央町29-1(今市図書館隣) ☎22-6217
開館時間 午前9時～午後6時(入館無料)
休館日 毎週月曜日、祝日



◆企画展紹介◎「江戸時代の村をみてみよう」(その4)
◎宗門改帳
江戸時代、幕府はキリスト教を禁止し、キリシタンの摘発を目的として宗門改帳を作製させました。各村では村にキリシタンがいなことを証明するために、全ての戸主と家族の名前や性別、続柄、年齢、宗旨宗派、檀那寺を記載し、領主に提出していました。当該寺院は領主のもとで村人を支配する立場となり、必然的に村人全員が仏教のいづれかの宗派に属することになりました。

宗門改帳は各戸全員の名前や年齢などが分かるので、現在の戸籍簿にあたるものといえます。また男女別の村人数を集計しているのが、村の人口動態が把握でき、資料でもあります。

南小倉村宗門御改帳 慶応4(1868)年

◎南小倉村の宗門改帳
今市地域最南部に位置する南小倉村の名主家には、元禄2(1689)年から明治4(1871)年に至る約70点の宗門改帳が残されていました。いずれも各戸が「真言宗正林寺檀那」であり、キリシタンはいないということを届け出ています。

当該宗門改帳をもとに当時の村の人口動態を見ると、家数は1782年まで40軒ほどで推移していますが、以降20～30軒に減少していき、人数も20人前後で増減していますが、1780年代以降徐々に減り、享和4(1804)年に16人と半減します。

このころ、北関東を中心とした農村では、天明の飢饉を契機として少子高齢化と人口減少が続ぎ、農村荒廃が進行していました。

◆ 昔の人が書いた「昔の村名を読んでみよう」コーナー開催中
◆ 開館30周年記念コーナー開催中
◆ 昔のあそびコーナー開催中